



## 東日本大震災緊急復興支援 12カ月活動レポート



東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。  
ワールド・ビジョン・ジャパンは震災発生直後から、多くの行政機関、  
企業、団体、NPO、ボランティアの方々と連携しながら、これまでの海  
外における活動の経験を活かし、総力を挙げて緊急復興支援に取り組ん  
でまいりました。

震災発生から1年を迎えた現在、被災地では、復興に向けた歩みが一  
歩ずつ進められています。ワールド・ビジョン・ジャパンは、これから  
前に進もうとされている被災地の方々に寄り添い、その歩みを後押しし  
ていきたい、と思っています。そしてやがて、被災地の子どもたちが、  
将来への夢や希望を抱いて成長していくことができるよう、応援してい  
きたいと願っています。

今後とも活動を見守っていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長 片山信彦



表紙の写真：2012年3月、南三陸町立戸倉小学校の子どもたちが、1年間のチャイルド・フレンドリー・スペースの活動を振り返って、メッセージを作ってくれました



1月末までにのべ  
**141,054**人を支援



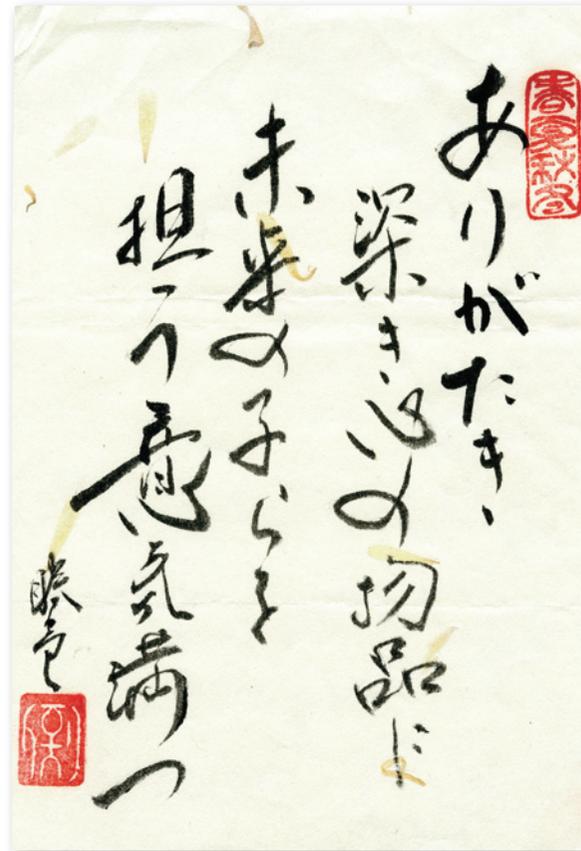
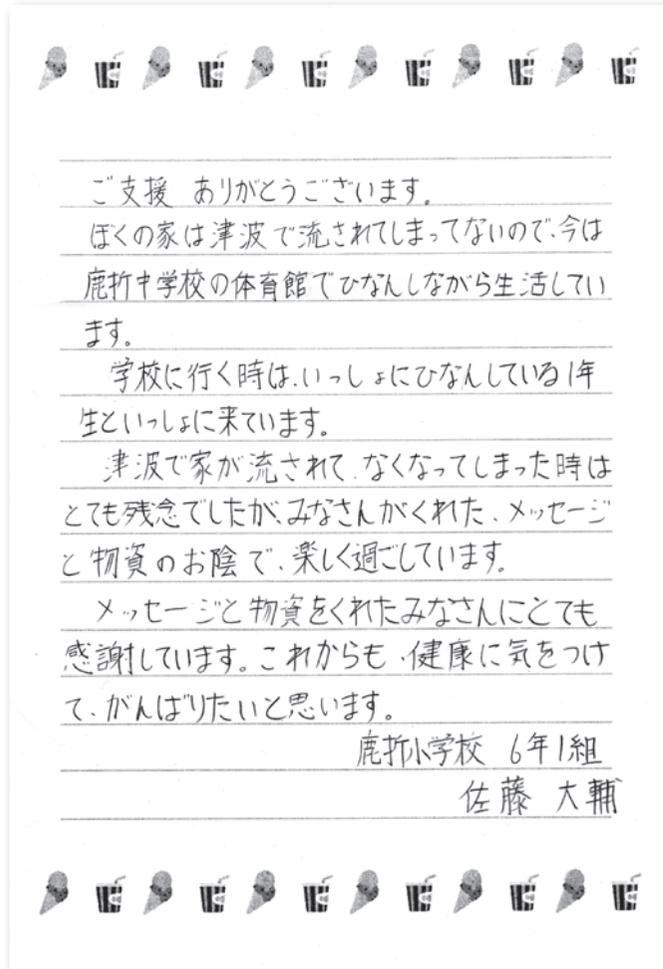
小・中・高  
**88**校に  
 学用品セットを  
 支援



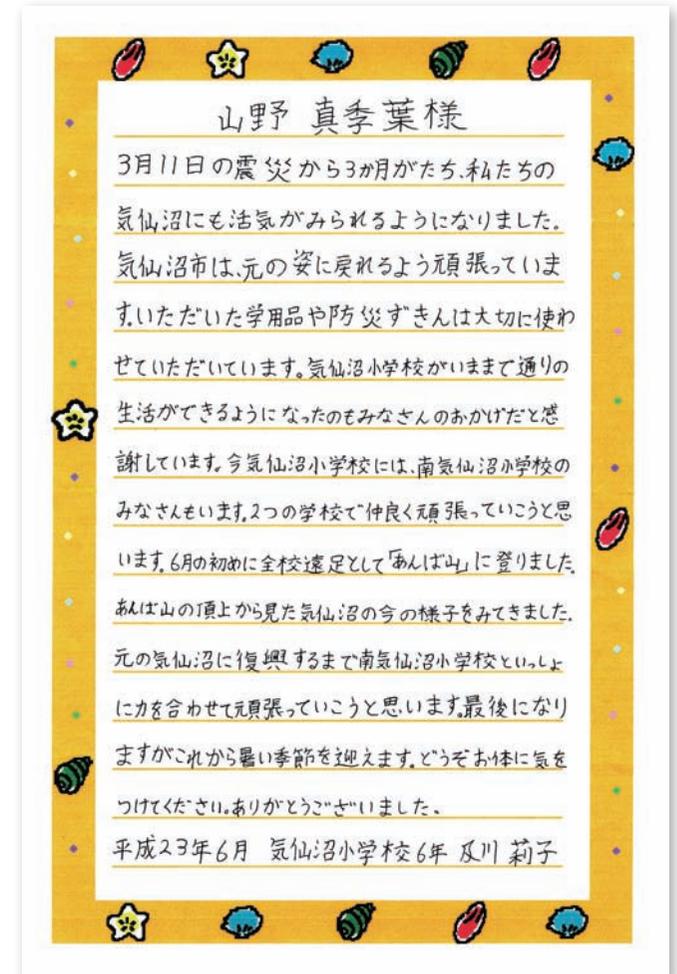
仮設住宅  
**13,343**世帯に  
**105**品目の  
 生活用品セットを支援

## お手紙紹介

支援を受けられた方々より、  
ワールド・ビジョン・ジャパン宛に多くの温かいお手紙が届きました。  
その一部をご紹介します。



宮城県気仙沼市立津谷小学校 長田勝一 校長先生からのお手紙



宮城県気仙沼市立気仙沼小学校 6年 及川莉子さんからのお手紙

この度は、温かいお心遣いを頂きありがとうございます  
ございました。

震災後は、ライフラインがすべて使えず不安な日々を  
過ごしました。

そんな中、皆様方の心のこもった支援を頂き

家族一同幸せな気持ちになりました。

そして頑張ろうという気持ちが出てきました。

子供達と学校にも行けず、不便な生活の中

小さな心で震災を受け止め、子供達なりに

頑張っていました。

そして私達大人は、子供達の頑張る姿に、

笑顔に救われました。

子供達の為に頑張ろう、そして色々な面で支えて

くれた皆様の気持ちを大切に、心の支えとして

前に進んで行かなければという気持ちになりました。

大島は、少しずつがれきの撤去作業など復旧作業

が進んでいます。「緑の真珠大島」に戻る

までは相当時間がかかると思いますが、

一日も早く復旧できるように、一歩ずつ前に向かって

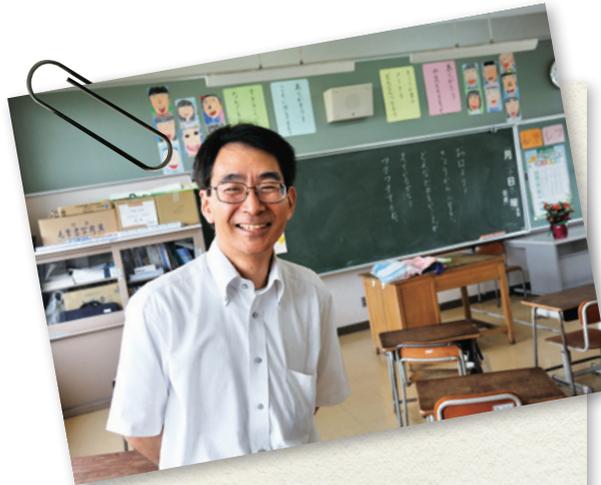
島民一同で頑張っていこうと思います。

皆様もお身体を大切に、お過ごし下さい。

本当にありがとうございます。感謝します。

大島小学校 PTA

宮城県気仙沼市立大島小学校



チャイルド・フレンドリー・スペースがあったことによって、子どもたちは、震災によって途絶えてしまった、親や先生以外の人々との“インフォーマルな関係”を持つことができました。日常生活のなかで、聞いてほしいことや、頑張ったことを受け止めてくれる人たちがいたことで、戸倉小学校の子どもたちは、震災後不安定になった心の波を乗り越えることができました。本当に、感謝しています。

宮城県南三陸町立  
戸倉小学校  
麻生川 敦 校長先生

震災発生直後は、失ったものが大きすぎて、(組合員の皆さんは)何も手につかない状況でした。しかし、5月頃には漁場の復活に取り組むことを決心し、元の海よりも大きく、美味しい漁場作りをしようと、頑張ってきました。その中で、ワールド・ビジョンの支援は、ワカメ養殖者の方々にとって、心の支えになったと思います。この支援がなければ、漁場作りをすることも、皆さんの精神状態を保つことも難しかったのではないかと思います。

宮城県漁協協同組合 志津川支所  
購買販売課係長 兼 戸倉出張所担当  
星 晶孝さん



緊急期の支援



緊急支援物資／生活支援セットの配布



学校再開支援



コミュニティ・キッチン



おかず給食支援



子どもたちの心のケア

復興期の支援



子ども支援



雇用確保と生計向上



子どもを守るための防災支援



仮設住宅やその周辺地域でのコミュニティづくり



福島県被災者への支援

洋野町

9人



久慈市

166人



二戸市

31人



野田村

522人



田野畑村

419人



岩泉町

375人



滝沢村

2,505人



雫石町

30人



矢巾町

85人



紫波町

83人



宮古市

6,000人



山田町

4,992人

※住田町の一部も含む



大槌町

3,143人



釜石市

7,950人



大船渡市

2,235人



陸前高田市

6,997人



※遠野市、大槌町の一部も含む

気仙沼市

28,043人



栗原市

95人



南三陸町

9,829人



登米市

6,000人



石巻市

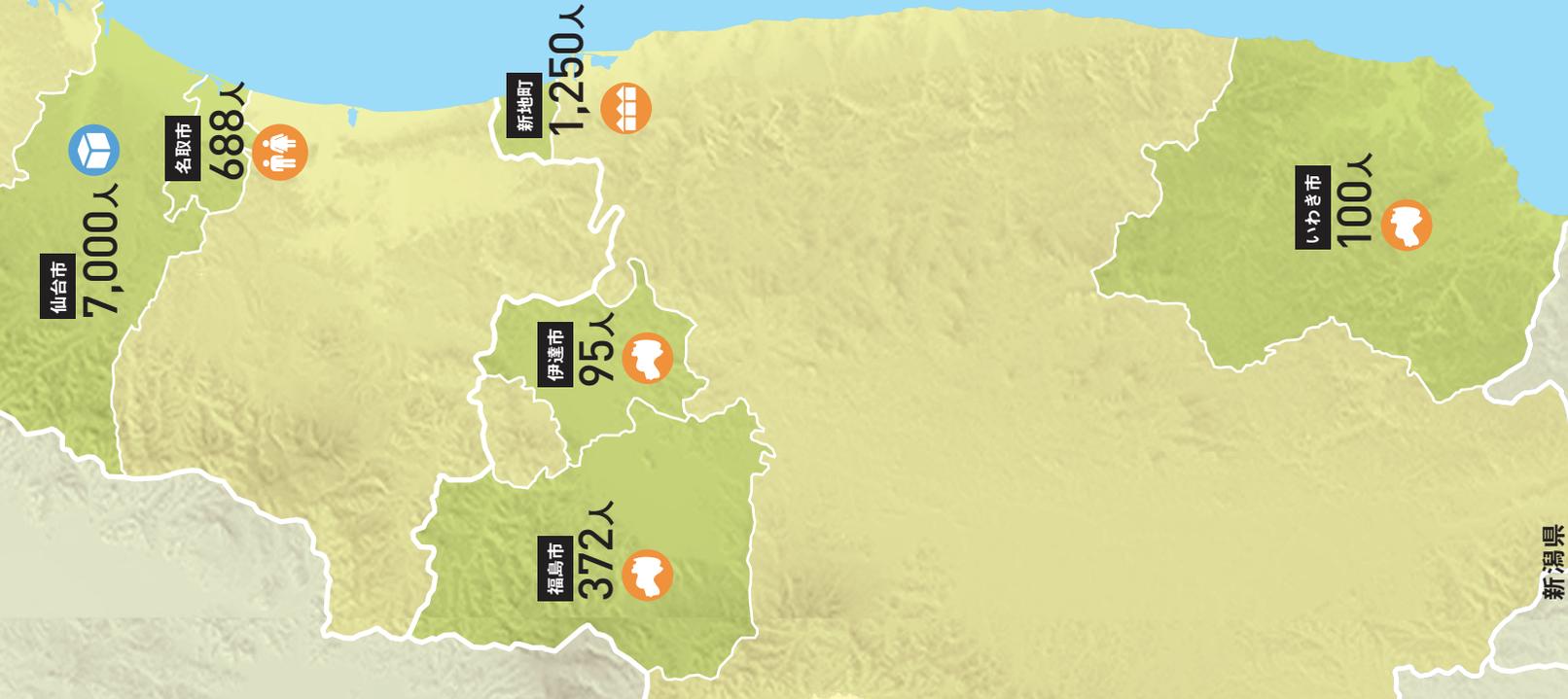
15,389人



女川町

1,550人





## 33市町村で、 のべ141,054人の方々に 支援を届けました。

### 東日本大震災緊急復興支援について

震災発生2日後にはスタッフを被災地に派遣。発生から約3カ月間を緊急期と位置づけ、被災した方々の生命と尊厳を維持するために最低限必要な衣・食・住の確保と、弱い立場に置かれている子どもたちへの支援に重点を置いて活動しました。

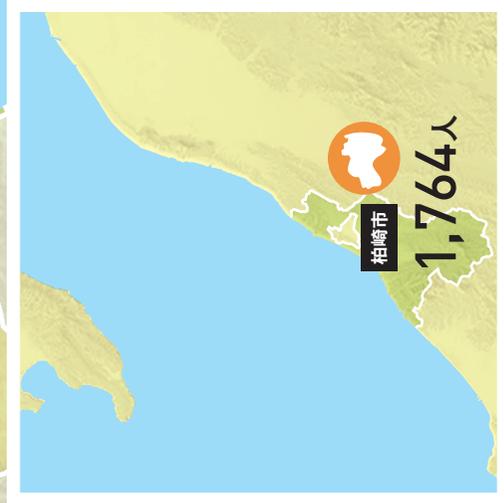
また7月以降は復興期として、被災地の生活環境が震災前より

も改善され、子どもたちが将来への夢や希望を抱き、健やかに成長できる社会となるよう、長期的な復興に寄与することを目指し、子ども支援、雇用確保と生計向上、子どもを守るための防災支援、仮設住宅やその周辺地域でのコミュニティづくり、福島県被災者への支援の5分野で活動を行っています。

### 2014年3月まで活動を実施

今後は、支援活動の内容や規模を段階的に縮小しながら、震災発生から3年となる2014年3月まで活動を継続します。支援の成果が地域に根付き、持続していくことを目指して、地元NPOの育成支援に力を入れつつ、徐々に活動の規模を収縮し、2013年1月以降は、パートナー

団体である地元NPOを通じた活動を中心に子ども支援を継続し、支援の成果が定着、発展するよう活動状況を見守ります。3年間にわたる東日本大震災緊急復興支援によって得られる貴重な経験は、その後に開始予定の日本の子どもたちへの支援につなげ、活かしていく予定です。



福島県から避難している方々を支援しています



### 緊急支援物資／ 生活用品セットの配布

水、毛布、紙オムツ、衛生キットなどの支援物資を避難所に届けつつ、岩手県と宮城県の仮設住宅に入居する13,343世帯に、新しい生活をスムーズに始めることができるよう、105品目におよぶ生活用品を届けました。



### コミュニティ・キッチン支援

宮城県南三陸町で4カ所、気仙沼市で1カ所の避難所に、コミュニティ・キッチン(食事が用意できる施設)を支援し、避難所が閉鎖されるまでに、910人を対象に食事を提供しました。調理環境が大幅に改善したことで、子どもたちの食事内容も改善されました。



### 子どもたちの心のケア

精神的にも不安定になりがちな子どもたちが、安心して遊び、話ができるチャイルド・フレンドリー・スペース(以下CFS)を宮城県登米市と南三陸町の7カ所で実施。のべ326人の子どもたちが参加し、日常的な感覚を取り戻すことで、心のケアを行いました。



### 学校再開支援

子どもたちが待ちに待った新学期を順調に迎え、学習を再開できるよう、岩手県と宮城県の小・中・高校88校に、学用品や学校設備を支援。また、南三陸町にあった校舎が全壊し、隣接する登米市に仮移転した戸倉小学校の子どもたちのために、スクールバスを支援しました。



### おかず給食支援

給食センターが流失してしまった南三陸町のすべての小・中学校のために、仙台市にある企業の協力を得て、おかず給食支援を実施。2011年6月1日、最初のおかずが届くと、子どもたちから歓声があがりました。

### 子ども支援

#### 子どもたちが守られ、復興の力となるように

5月に学校が再開してから、戸倉小学校でのCFS活動を続行。放課後、スクールバスまでの時間、子どもたちが安心して過ごせる場所を提供し、また先生方とも連携しながら、子どもたちの心や体調に変化がないか、見守ってきました。また、CFSは夏休み期間中も開設し、多くの保護者の方から感謝の声寄せられました。2011年10月からは、南三陸町保健福祉課と(特非)キッズドアと連携し、放課後児童クラブも運営しています。



「仮設住宅には同じ学校の友だちもいないので、すごく助かります。子どもも楽しみにしています」(保護者の声)

#### 給食センター再開支援

夏休み期間中、津波の被害を免れた旧給食センターの建物を整備。2学期からは週に1回、ワールド・ビジョン・ジャパンの支援なしで給食を子どもたちに届けられるようになりました。2012年4月の新学期からは、南三陸町内ですべての給食をまかなえるよう、給食センターの増築を支援しています(2012年3月末完成見込み)。



2学期以降提供されている給食の一例

#### 復興のプロセスに子どもたちの声を

南三陸町教育委員会、南三陸町子ども会育成会連絡協議会と連携して、2012年1月より「子どもに笑顔地域に夢を」南三陸まちづくりプロジェクトを開始しました。同町ボランティアサークル「ぶらんこ」に参加しているジュニア・リーダーと一緒に、南三陸町がより良く復興するために子どもたち目線で話し合うワークショップを開催。3月(南三陸町)と6月(東京)に、意見を発表するためのイベントも開催する予定です。



「復興のために、自分たちに何ができるのかを考える道筋ができたような気がして、すごく嬉しいです」(ワークショップに参加した三浦さん 高2)

## 雇用確保と生計向上

### 復興には安定した収入が不可欠です

津波によって、1,000隻あった漁船のうち、950隻が流失してしまった南三陸町の宮城県漁協協同組合志津川支所に、共同で使用するための和船12隻と、ワカメ養殖に必要な資機材等を支援。ワカメは養殖漁業者の方々が、震災後初めてまとまった収入を得られる大切な漁獲物です。2012年1月から、最初の収穫が始まっています。



ワカメの収穫の様子

### 気仙沼漁協・超低温冷蔵庫が再開

気仙沼漁協が所有する超低温冷蔵庫の一部修復を支援し、2012年2月より、稼働が一部再開されました。このことにより、多くの企業が水揚げされた魚介類を保存し、加工・販売することが可能となり、気仙沼市全体の水産加工業に関連した経済活動が再び動き始めるための、第一歩となっています。



一部稼働が再開した超低温冷蔵庫

## 子どもを守るための防災支援

### 将来の災害から、子どもたちの命を守るために

指定避難所となっている気仙沼市の小・中学校10校に、太陽光発電システム、井戸、防災倉庫を支援しています。災害発生時には、最低限必要な電気と水を供給することができ、将来発生する災害から、子どもたちの命を守る機能の強化につながります。



井戸の掘削作業の様子

また、宮城県気登米市で47カ所、岩手県宮古市で31カ所の指定避難所への毛布、非常用トイレ、ガソリン等の物資支援や、宮城県気仙沼市での防災行政無線個別受信機の配布なども予定しています。

## 仮設住宅やその周辺地域でのコミュニティづくり

### 中越地震の知恵を東北へ

新潟大学の岩佐研究室と共同で、「仮設のトリセツ」冊子版を制作。宮城県と岩手県を中心に、仮設住宅に入居されている約20,000世帯に配布しました。「夏の暑さの攻略法」「結露対策」といった具体的な方法から、入居者同士の交流を深める方法など、仮設住宅での生活の知恵や工夫を分かりやすく紹介しています。



「仮設のトリセツ」冊子版

### 交流のきっかけとなるように

宮古市内の仮設住宅にベンチとテーブル90セットを支援。住民の方々がお互いを知るきっかけづくりのためです。「今まで芝生や、段差に座って話していましたが、高齢者には負担が大きいのでとても助かります」など感謝の声を頂きました。



ベンチでおしゃべりを楽しむ、入居者の方々

## 福島県被災者への支援

### 見守り支援の実施

新潟県柏崎市の(特非)地域サポートセンター柏崎を支援し、福島県からの避難者668世帯のうち、506世帯を定期的に訪問し、見守り活動を行なっています。さらに、事務所内のスペースで同郷の避難者同士や、地域の方々と交流できるサロンを月3~4回を開催し、これまでにのべ200人が参加。避難者の方々の引きこもり防止と、交流促進に役立てられています。



(特非)地域サポートセンター柏崎の皆さまと、ワールド・ビジョン・ジャパンの柴田スタッフ

### 交流・再会のためのイベントを開催

福島第一原発の影響により、福島県二本松市と柏崎市で避難生活を送っている浪江町の子どものために、柏崎市を支援し「浪江町児童・生徒交流ツアー」を開催。約100名の子どもたちが参加し、友だちとの再会や外遊びを思い切り楽しみました。また11月には、柏崎市内で暮らす福島県外避難者の方々のために、「ふるさと交流会」を開催。約400人が参加し、久しぶりの交流を楽しみました。



イベントの様子

# 東日本震災緊急復興支援事業開始からの 正味財産増減の状況

2011年3月15日より2012年1月31日まで (単位:千円)

## I. 一般正味財産増減

### 経常収益

1 受取寄付金	4,249,475
受取その他募金・寄付金 (日本国内より)	1,121,188
日本国内の募金・寄付金	1,010,098
日本国内の物品による寄付	111,090
受取その他募金・寄付金 (海外より)	3,128,287
WVパートナーシップ事務所を通じての募金	3,109,631
WVパートナーシップ事務所を通じての物品による寄付	18,656
2 受取補助金等	113,685
民間団体からの受取助成金	113,685
3 雑収益	13,518
4 一般会計からの繰入金収入	10,329
経常収益合計 (A)	4,387,007

### 経常費用

1 事業費	2,182,503
地域開発援助事業費	2,145,259
地域開発援助事業費	2,026,462
子ども支援	263,583
物資支援	931,990
コミュニティ・キッチン支援	17,337
防災支援	39
生計向上支援	117,807
コミュニティ支援	520,601
福島県被災者支援	51,052
一関事務所運営管理費等	124,053
地域開発援助事業管理費	118,797
啓発教育費	37,244
各種啓発教育費	20,658
啓発教育事業管理費	16,586
2 管理費	3,775
経常費用合計 (B)	2,186,278

当期一般正味財産増減額 (A)-(B)	2,200,729
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高 (C)	2,200,729

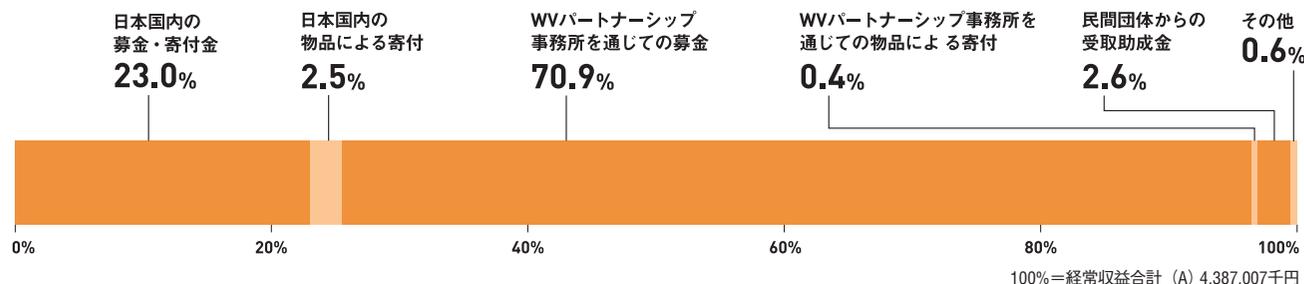
## II. 指定正味財産増減

当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高 (D)	0

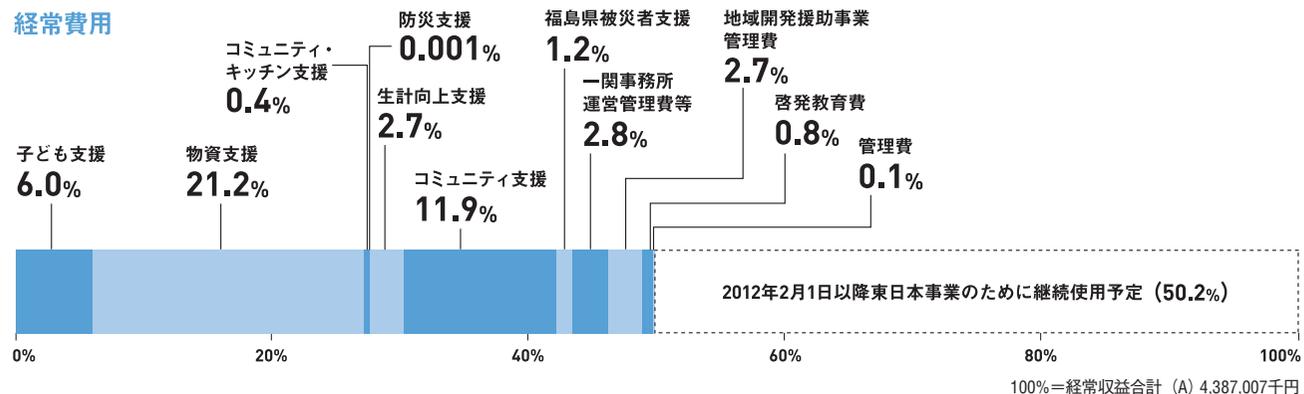
## III. 正味財産期末残高

正味財産期末残高 (C) + (D)	2,200,729
--------------------	-----------

### 経常収益



### 経常費用



### ワールド・ビジョン・ パートナーシップ事務所を 通じての募金内訳 (物品含む:米ドル)

台湾 (物品を含む)	\$16,326,327	タイ	\$312,000
香港	\$7,500,000	マレーシア	\$260,000
アメリカ	\$5,000,000	オランダ	\$133,000
カナダ	\$1,600,000	オーストラリア	\$110,000
ドイツ	\$2,554,727	インドネシア	\$37,300
韓国	\$1,950,507	インド	\$31,000
スイス	\$1,700,000	フィリピン	\$20,000
オーストラリア	\$1,344,045	アイルランド	\$8,871
シンガポール	\$730,000	カンボジア	\$2,843
イギリス	\$500,000	イタリア	\$900
ニュージーランド	\$329,036		

## 企業との連携紹介



生活用品をセットする、株式会社ダイエーの皆さま

お話をいただいてから取り組み開始までの期間が短く、また、初めての業務にとまどうことや十分にご要望にお応えできなかったことも、多々ありました。ただ、ワールド・ビジョン・ジャパンの皆さまの、明るい雰囲気を持ちながらも、被災者の方々の支援に対する真摯な姿勢と頑張り、そして被災された方々からのお礼に背中を押されながら、進めて参りました。ワールド・ビジョン・ジャパンさまとの取り組みが今回限りではなく、将来にわたって継続できればと考えております。

支援物資の調達にご協力いただいた、

**株式会社ダイエー**

商品グループ副グループ長

土井さまより



ご提供いただいた支援物資を手渡す、ワールド・ビジョン・ジャパン高木スタッフ

ワールド・ビジョンはP&Gのグローバルパートナーであり、以前から信頼感をもっていました。昨年初めて、日本でも被災地の支援活動において協働する機会があり、その専門性への信頼感がさらに深まりました。被災地にまっさきに入り、状況を把握し、必要な支援を洗い出して行動する、その迅速さと行動力は素晴らしいと思います。気持ちはあっても企業が単独でできることは限られています。私たちができることをさらに価値ある支援につなげてくれる、貴重なパートナーとの連携をさらに深めていきたいと思っています。

緊急支援物資をご提供いただいた、

**P&Gジャパン株式会社**

エクスターナルリレーションズマネージャー

岩原さまより

## 協力企業一覧 (順不同)

東日本大震災緊急復興支援募金へのご支援  
(一部・敬称略)

山崎製パン株式会社、孫正義氏、株式会社スタートトゥデイ、東京海上日動火災保険株式会社、P&Gジャパン株式会社、社団法人日本食品機械工業会、任意団体ベネッセ募金口、株式会社不二家

物品寄付によるご協力

イケア・ジャパン株式会社、日産自動車株式会社、住友化学株式会社、富士フィルムホールディングス株式会社、P&Gジャパン株式会社、日本アムウェイ合同会社、花王株式会社、株式会社チュチュアンナ、阪神酒販株式会社、日清紡ホールディングス株式会社、和光堂株式会社、株式会社味千汐路、主富服装股份有限公司

東日本大震災緊急復興支援での協働

株式会社ダイエー、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、株式会社良品計画(無印良品)、株式会社ヤマザキ物流、株式会社住友倉庫、イオンリテール株式会社、西川産業株式会社、株式会社コジマ、ソーラーフロンティア株式会社

その他

ヤマザキグループ企業(支援金の受付協力、緊急支援物資の運搬への全面協力、おかず給食支援への製造・運搬協力)、株式会社住友倉庫(倉庫の提供)、玉の肌石鹸株式会社、EVERGREEN GROUP



ボランティアの方々による、倉庫での作業の様子

震災直後よりワールド・ビジョン・ジャパン様のご指示のもと、支援活動に参加することができたことを、嬉しく思っています。倉庫内の作業には、ボランティアの方々にお手伝いいただいていたのですが、ボランティアの方々の年齢や能力が違う中、皆が気持ちよく作業できるよう大変なお気遣いをされていることに、感動いたしました。皆さまの支援活動は本当に尊い活動であり、今後も微力ながらお手伝いのできたらと思っています。

支援物資を備蓄する倉庫をご提供いただいた、

**株式会社住友倉庫**

東京支店 トランクルーム営業課

山崎さまより

ありがとう  
ございます。





 モンゴル



 バングラデシュ

 エチオピア



 カンボジア



 ベトナム

### 世界中の子どもたちから、 応援が届いています

ワールド・ビジョン・ジャパンは世界の子どもの健やかな成長を目指して、36カ国で支援活動を行っています。これまでにチャイルド・スポンサーシップを通じて支援してきた多くの途上国の子どもたちから、震災後、応援メッセージが寄せられました。

World Vision

この子を救う。未来を救う。

## 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 東日本大震災緊急復興支援 12カ月活動レポート

2012年3月発行  
発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン  
(東京事務所) 〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-8-3F  
TEL 03-3367-7251(代) FAX 03-3367-7652  
(一関事務所) 〒021-0031 岩手県一関市青葉町1-6-4 シャトレ一壱号館204  
TEL/FAX 0191-31-3382  
ホームページ <http://www.worldvision.jp/>  
郵便振替 00130-6-254059

当団体は「認定NPO法人」です。  
皆さまからのご寄付は寄付金控除の対象となり、税制優遇措置を受けられます。

本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを堅く禁じます。